

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

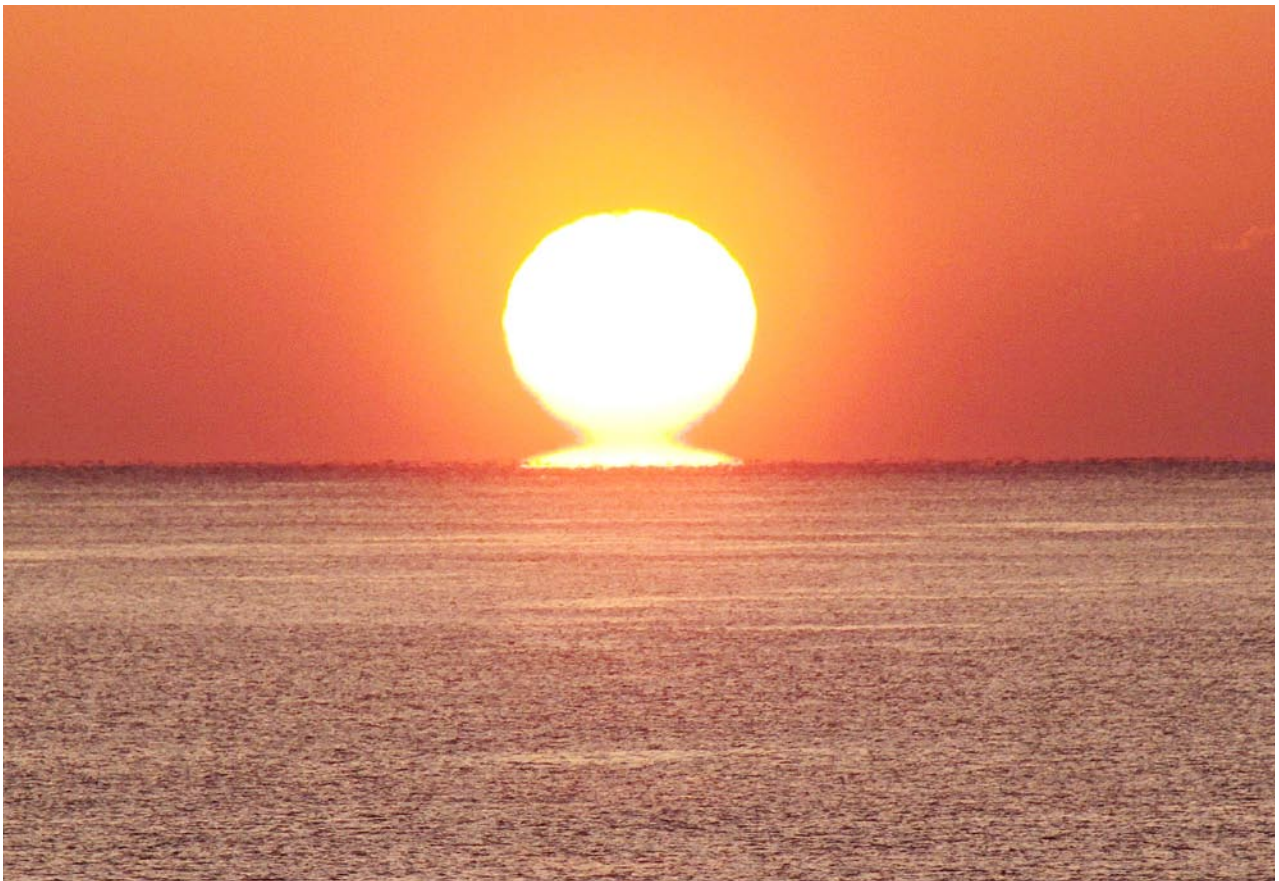
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1102 2012年1月号

頌 春



高知県 桂浜沖のだるま朝日



2011・国際森林年

年頭のあいさつ

四国森林管理局長 新木 雅之



生に向けた歩みが進められております。

「森林・林業再生プラン」の実施については、一〇年後の木材自給率五〇%という目標に向け、昨年五月に森林・林業基本計画及び全国森林計画の改正が行われ、さらに、地域や市町村の森林計画の改正が進められております。

東日本大震災の被災者の皆様には、改めて心よりお見舞いを申し上げます。

本年においても、一日も早い被災地復興に向けた努力して参ります。

さて、内外共に多難な情勢の中で、森林・林業については、国民の皆様への森林に対する意識の高まりを背景に、着々と再

レスタターの研修が行われ、国や県の拠点に配置されております。



森林施業の実行監理演習 (准フォレスタター研修)

そして新年度には、森林所有者等による森林経営計画の策定が始まりますが、相続税の納税猶予を含む税の優遇措置も措置される方向で準備されています。

一方、国有林については、一昨年の「事業仕分け」の結論を踏まえ、一般会計化を検討することとなり、林政審議会で議論が

進められた結果、一二月に「今後の国有林野の管理経営のあり方について」が答申されました。

今後は、事業・組織の一般会計化への移行を図りながら、国有林の公益的機能をより一層重視した管理経営を行うとともに、森林・林業の再生、地域振興などの施策の推進に資するため、民有林との連携や民有林の経営の支援を強化することとされております。

一般会計化については、さらに検討が進められませんが、四国森林管理局としても、森林共同施業団地の設置やニホンジカによる食害への対応など、民有林との連携の推進に積極的に取り組んで参ります。

また、昨年は台風によ

る大規模な災害が発生し、四国各地でも被害を受けました。改めて山地保全の重要性を認識したところであり、本年においても治山事業の推進に努めて参ります。

さらに、高知県への大型木材加工業の進出予定という動きが見られ、四国の森林資源の活用に向けた取組みが本格化しようとしております。

本年も森林・林業にとって重要な時期となりますが、四国森林管理局として、皆さまの声を踏まえながら「国民のための国有林」として地域と共に歩んで参りたいと存じます。

むすびに、本年のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。



新木局長挨拶

国際森林年及び一昨年の国際生物多様性年を記念し、一月二七日に高知市の高知城ホールにおいて、四国森林管理局主催の生物多様性保全シンポジウムを開催しました。これは、四国の森林等に生息する野生動物の現状と課題について理解いただくことを目的とするもので、約八〇名の方々に参加いただきました。

国際森林年記念

「四国の森林生物多様性保全シンポジウム」を開催

〈指導普及課〉

新木局長から国際森林年及び当シンポジウムの意義等についての主催者挨拶を行い、これに続き、高知市わんぱーくこうちアニマルランドの元職員で現在は動物写真家として活躍されている中西安男氏から「すばらしき野生の世界」とのタイトルで、カモシカの生態や北海道など全国の動物、アフリカの大地での野生動物の様子などをすばらしい写真で紹介いただきました。動物園での飼育経験なども含め、大変楽しい講演をいただきました。さらにニホンジカのほか外来生物の増殖による生態系への影響など近年の野生動物の現状についても言及し、人

為の取組の必要性を訴えられました。

続いて、四国各地において自然環境の維持のために活躍されている方々から、野生動物の現状と生物多様性の保全に向けた取組方向に関する報告をしていただきました。

まず、森林総合研究所四国支所の佐藤重穂氏から「森林環境と生き物たち」として、四国の多様な森林とそこに生息する昆虫や野鳥について報告していただきました。

続いて、NPO法人四国自然科学研究センターの金澤文吾氏から「四国の森にくらすツキノワグマ」として、絶滅が危惧されている四国のツキノワグマについて歴史と現状についての報告をしていただきました。

さらに松山東雲女子大名誉教授の石川和男氏が

「タカ類の保全と生物多様性」について、生態系におけるタカ類の重要性などについて報告していただき、よみがえれ四万十源

の会の山崎三郎氏から「四万十源流のいま」津野山あめぐと旅する蝶アサギマダラ」について、放流

ものでない四万十川固有のアマゴの保全の重要性などについて報告していただきました。

高知県立牧野植物園の前田綾子氏からは「シカの食害と希少植物」について、希少植物のシカ食害の影響調査や保全対策について報告していただきました。

最後に当局の小川計画課長から「四国国有林の生物多様性」について、保護林やみどりの回廊の取組などを報告しました。

質疑では、ニホンジカの食害によるツキノワグマの生息環境への影響の程度やモウソウ竹の繁茂が生物多様性に及ぼす影響、ニホンジカ対策の取組など、予定時間を超える活発な質疑・意見交換が行われました。

また、会場内では中西氏のパネル展と植物標本やヤイロチョウの剥製などを展示し、理解を深めていただきました。

当局としましても、シンポジウムでのご報告・ご意見を生物多様性保全やニホンジカ対策等の参考にさせていただきます。



基調講演 中西安男氏



木製の国際森林年パズルゲーム

その後、木製の「国際森林年ロゴマークパズル」「各種けん玉ゲーム」「木製ゲームてっぽうゲーム」等を行い、親子で楽しい時間を過ごしました。

今回のイベントは、園児及び保護者に対して森林浸透実験装置に「学校

校林の歴史」を学びました。次に当局職員が、『水の浸透実験装置』に「学校

校林の歴史」を学びました。次に当局職員が、『水の浸透実験装置』に「学校

一月一七日、高知県土佐市立蓮池保育園において、親子二三組が参加した森林教室と木工教室を実施しました。

これは、七月五日に土佐市山の手保育園において実施した森林教室等について蓮池保育園の園長さんが聞

一月一日、高知県南国市立鳶ヶ池中学校が所有する学校林で、一年生四九名が森林の働き等について学習しました。

同校の生徒は、三年間で学校林の歴史や森づくりを学び、学校林の整備を体験します。

今回は、一年生が、「学校林の歴史」「森林の働き」「森で遊ぶ」を体験しました。

『保育園での親子森林教室・木工教室』開催

〈指導普及課〉

学校林での森林環境教育

〈指導普及課〉

の働き及び木の良さ、大切さを学んでもらうものであり、また、国有林野事業のPRの良い機会になりました。



水の実験の様子



パズルゲームの様子

当日は、木を使った特殊なけん玉等九種類のゲームをクリアすると、「カエルストラップ」を作る木工教室に参加できるコーナーを設け、児童約七〇名が参加しました。

中には、ゲームに三回チャレンジする児童もあり

この取り組みは、家庭科教師から、「最近では、便利になりすぎて、刃物を使っ

て、削る、切るという基本的な作業が苦手な生徒が多いため、生徒たちに木工を通して、木に触れ楽しみな

め森林の持つ働き的重要性について学びました。

一月二〇日、高知県土佐市立高岡第二小学校において、木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室を実施しました。

これは、山の手ふれあい

フェスタ実行委員会から校区のイベント「第七回山の手ふれあいフェスタ」の体験学習コーナーの一つとして、四国森林管理局に木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室の依頼があったものです。

一月二日、高知県立高知西高等学校普通科三年生一九名を対象にした森林教室及び木工教室を実施しました。

これは、普通科の選択科目で「発育と保育」を選択する生徒を対象に森林環境教育と刃物の使い方の実践を兼ねた木工教室を行いました。今年で四回目の取り組みです。



木工教室

生徒は、鋸で木を切ったこりナイフで鉛筆を削ったこととはありますが、使い慣れていない刃物を扱うのは、容易ではなかったようで、鋸で材料を切り離す作業で「真っ直ぐ切れない。」と四苦八苦でした。

今回の取り組みを終え、生徒達は、自然素材で出来る「オンリーワンの小枝のブローチ」を自分で作り上げ、森林に対する関心を高め森林の持つ働きの重要性について学びました。

木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室

〈指導普及課〉

を使い、森をささえ、森と暮らすという、森づくりの精神を実践しています。

今後とも、このような取り組みに積極的に協力して行きたいと考えます。

「刃物の使い方の実践」

〈森林環境教育〉

〈指導普及課〉

今回のイベントは、児童

大盛況でした。また、木製ゴムてっぽう射的大会を二回開催し、約三〇名の児童が参加しました。

対して木の良さ、大切さを知ってもらうものであり、国有林野事業のPRの良い機会にもなりました。

「してもらいたい。」との依頼があり実施したものです。始めに森林教室では、森林及び国際森林年について、森林の働き及びロゴマークの意味等について理解を深めてもらいました。その後、森林整備で切り出された小枝を使い「小枝のブローチ」を作製しました。